

一般飲食店における高温・低温物との接触災害の死傷災害発生事例（2017年）

2017年発生月	時間	死傷災害発生事例	年齢	労働者規模
1	5~6	朝食準備中、大鍋に作った味噌汁をスープウォーマーに移しかえようとした際にバランスをくずし、熱湯状態の味噌汁を足に撒いてしまった。	53	10~29
1	11~12	店内にて、ドライブスルー側のマストレーナー前でオーダーを伺っていたとき、オーダー画面の後ろにあるマストレーナーで、別の従業員がグランデサイズ（470ml）のエスプレッソコーヒーを作成中、温めたミルクが入ったピッチャーを落としてしまい、斜め後ろにいた被災者の臀部と両脚に熱いミルクがかかり受傷した。	22	—
1	21~22	厨房内にて丼にスープを汲んだところ、異物が入ってしまったので取り除こうと丼を傾けた際、誤ってスープをこぼしてしまい、左足内側の踝付近にかかり火傷した。	20	—
1	4~5	厨房内95℃に保温されていたソースポットを誤って掴んでしまい両手指に火傷を負った。	46	—
1	0~1	豚丼のたれ保存容器を洗浄するため、容器内容物を移し替えようとする際、誤って足に内容物をこぼし、その温度の高い内容物が踝にかかったため、火傷を負った。	35	10~29
1	21~22	調理場内で、フライヤーを使用して揚げ物を調理中に、揚げていたニョッキの揚げ具合を確認していた際、ニョッキが弾けてしまい、フライヤーの油が顔に飛び跳ねてかかってしまった。	18	10~29
	17~	厨房にて、寸胴鍋を使用して鶏がらのアク出し作業中、煮出したアクの熱湯を水に		

1	18	取り替えようと移動したところ、誤って鍋を床へ落としてしまい、熱湯が両足等に掛かり火傷を負った。	31	—
1	10～ 11	1階の仕事場、ガスレンジの上に鍋がかかっていて、エプロンの紐に引っ掛かり、太ももから長靴の中に、温つゆが入り火傷した。	58	—
1	11～ 12	店内キッチンにて、オーブンから加熱したグラタンを掴んで取り出した時、手が滑りグラタンが傾いてしまい、右手に熱いグラタンがかかって右手甲・中指・環指を火傷した。	45	—
1	12～ 13	店舗キッチンでチャーハン用の鉄板を補充する作業中に、体勢を崩し鉄板を温めるオーブンに誤って手をついてしまい、火傷を負った。	15	—
1	20～ 21	焼肉店で片付け中、バックヤードの台の上にポットを置いた際、台の上に他の下げ物が多くあり、台の端に置いたつもりが、バランスを崩してそのまま落下し、ポットのお湯が足にかかった。	30 18	— ～ 49
1	23～ 24	寸胴鍋に豚骨とお湯（スープ）が入っていたものをザルにあげ、豚骨を取り除き濾そうとしたところバランスがくずれ、お湯（スープ）が右足にかかった。	27	10 ～ 29
1	20～ 21	店舗内3階キッチン内で、オーブンに着火しようとした際、オーブン内にガスが充満していた様で、引火しガス爆発が発生し、顔面全体に火がかかり、髪の毛が焦げ、顔面全体を火傷した。	20	10 ～ 29
1	21～ 22	店内厨房、フライヤー付近にて、フィルタリング作業中に、油槽内にフィルタリング用具を落下させ、飛んできた油が、左上腕部及び顎にかかり受傷した。	20	50 ～ 99
1	21～ 22	店舗厨房にて、フライヤーポジションで油かすがたまる底の鉄板をレバーで引き上げる途中、手が滑って鉄板を落としたせいで高温の油がはねかえったために、左目付近の額から頬にかけて火傷した。	20	—
1	20～ 21	スープ製造の骨割工程において、一度取り出したスープをスープケトル5号機に戻す際、右手首に違和感を感じ、慌てて戻した結果、跳ね返りにより左手首付近、戻す際にこぼれたスープにより胸部から腹部にかけてに火傷を負ってしまった。	18	10 ～ 29

1	21~ 22	キッチンにてフライヤーの油交換後、廃油の入った一斗缶を運んでいた際、床で滑り、一斗缶が傾き、中の廃油が腕にかかる。	45	—
1	10~ 11	調理場において、鍋でそばつゆを調理しポットに移す作業をしていた。鍋が熱いので、ミトンを二重にして使用していたため左手が滑って外れ、その際、傾いた鍋からこぼれたそばつゆが左足にかかり火傷した。	51	—
1	21~ 22	店舗内ホールにおいて、お客様が退席した後にテーブル上の七輪を炭場まで片づける際、火種コンロに手があたり、右手親指付け根（甲）部分を火傷した。	18	—
2	1~2	店舗内厨房で、寸胴交換中、バーナー中心部に寸胴の外側がはまってしまい、手前に傾きはずみで、勢いよくスープが、左足に掛かってしまった。深夜の為、救急車で、病院に行った。	35	1~ 9
2	6~7	調理場で煮物の下準備中、大鍋を移動させようと持ち上げて歩いたところ、つまずき、熱湯をかぶってしまった。	41	10 ~ 29
2	2~3	店の厨房にて、閉店の閉めの作業中高所の棚に置いてある調味料を取ろうとした時に、清掃の為に通路の床に取り出して置いてあったフライヤーの熱い油が入った油受けに誤って左足が引っ掛かり転倒し、ひっくり返った油請の油がかかってしまい、広範囲に火傷を負ってしまった。	24	—
2	20~21	電磁調理器の上に鉄の鍋を置いた時に、電磁調理器のスイッチに誤って触れていたようで、電源が入ってしまい、鍋が熱くなっていたが、それに気が付かず、調理しようとして鍋を掴んでしまい左手指を火傷した。	33	—
2	18~19	厨房において、玉子焼きを焼く為フライパンを温めていたところ、火が引火してしまい、手で払ったところ、フライパンの油が右手にかかり負傷したものである。当日は応援のため、駅に出勤していたものである。	39	10 ~ 29
2	20~21	キッチンで、フライヤーを、清掃しようと、近くにあったステンレスのカゴを、片付けた際、手が滑り熱い油の中に落としてしまった。はねた油が、右手肘から、手のひらにかけてかかり、火傷を負った。	20	~ 29
		厨房でフライヤーの周り、特に油の入ったシンクの周りの汚れの酷い所を掃除して		

2	20~21	いた。力を入れて掃除していたので、勢い余って滑り、油に右手を入れてしまい、油が跳ねて右肩などにかかった。	21	—
2	16~17	店厨房内の換気扇のカバーをコンロの上に乗りながら清掃中、上を向きながら、移動したため、湯を沸かしてある鍋（寸胴）に足を入れてしまい、左足を熱傷した。	55	—
2	9~10	厨房でお湯を沸かしていた大鍋を誤ってひっくり返し、左足の足首から甲に火傷を負った。お茶の入った鍋を移動し、煮さばを作ろうとした際、お茶を棚に移動する際に誤って落として火傷した。	42	1~ 9
2	15~16	店内厨房にあるグリル（肉焼成専用機器）前にて、ハンバーガー用牛肉をグリルから保管用トレイへ移す際、グリル上部の鉄板（218℃）に左手甲部分が触れ、1度の火傷をした。翌月職場復帰の見込みである。	20	30 ~ 49
3	7~8	厨房からカウンターにスープジャーを移動させるため、スープジャーを持ち上げたところ蓋がずれ、持ち上げた反動でずれていた部分から中の味噌汁がこぼれ、両足首より下部分にかかり熱傷を負った。	19	10 ~ 29
3	20~21	店舗キッチンの茹で麺機付近において、向かいの寿司場でオーダー作業を行っていたところ、茹で麺機のお湯が少なくなっていたため激しく沸騰しており、茹で麺機からお湯が跳ねて足に落ち受傷した。	17	30 ~ 49
3	13~14	店内キッチンにてグリルを清掃中、スケッパーで汚れを落としていたところ、熱い油がはね、左手示指、中指を火傷した。	60	30 ~ 49
3	18~19	店舗の厨房でラーメンのスープをあたためて大きな寸胴に移すときに足を滑らせ、右肩から手首まで熱いスープがかかった。	68	10 ~ 29
3	8~9	朝のそば注文のピークが終わったあと、右手に痛みがあり、右手を見ると大きな水疱ができていた。	52	1~ 9
3	23~24	ヘルプ先である店バックにて、カレーウォーマー清掃のためお湯抜きをしながら別の作業を行っていたところ、誤ってそこに左足を当ててしまい、左足踵部分に熱湯が掛かり火傷を負った。	45	10 ~ 29

3	6~7	フードコート内の厨房でラーメンスープを調理している際、時間に間に合わないの で火力の強いコンロへ鍋を移し戻そうとした時、ラーメンスープが手にかかり、そ のままコンロに乗せようとしたが鍋ごとひっくり返し、腕と足に火傷を負った。	50 ~ 99
3	12~13	店舗厨房内においてラーメンの調理作業中、作業台に丼を並べてトッピング作業を 行っていたところ、作業台を挟んだ目の前でスタッフが右手に柄杓を持ち、丼に スープを注いでいた。作業中の別スタッフの後ろの通路を被災スタッフが通ろう としたところ、誤って別スタッフが柄杓を持つ右の肘に身体が接触し、そのはずみ で柄杓に入っていた高温のスープが跳ね、右手・右腕にかかり熱傷した。	30 ~ 44 ~ 49
3	13~14	飲食店（そば）のタイル敷き調理場内の食器洗い場において、お客様の飲食後の食 器である1人用鍋を客席から洗い場に運び積み重ねている作業中、バランスを崩し て釜に入っていた熱いお湯を自身に向けてかけてしまい、両足に熱傷を負う。	67 ~ 9 1~
4	13~ 14	キッチン内で、ラーメンスープを寸胴から丼ぶりにスープを入れる際に、被災社員 の後方から別の社員が通過しようとしたときに接触し、90℃以上のお湯が左肘下 部にかかってしまった。	10 ~ 51 ~ 29
4	14~ 15	店内の更衣室の入口にて、熱湯を持ったまま入口の段差につまずき、右足甲と指に かかって火傷した。	30 ~ 54 ~ 49
4	18~ 19	店内調理場にて、揚げ物をしている最中に、通常コンロが左側にあるため揚げ物を 入れるバスケットの取っ手は手前に向けておくべきところを、不注意でコンロ側に むけていた為、コンロの熱で高温になっていたのに気付かず握ってしまい、右手の ひらを火傷した。	50 ~ 20 ~ 99
4	17~ 18	調理場に於いて天井の換気扇まわりの油拭き清掃作業の為、調理台（75cm）の上 に乗り移動しながら作業をしていたところ、火にかけていたラーメンスープの仕込 寸胴60L（42×42）の、調理台より10cm位高く出ている蓋に足が当たり、蓋が外 れた所に右足が寸胴に入って負傷した。	43 ~ 9 1~
4	20~ 21	厨房内にて閉店作業中スープの寸胴を清掃する為、排水溝にお湯を流そうとしたと ころ水量が多くはね返ってきたお湯が左足首にかかり火傷した。	42 ~ 10 ~ 29

4	12～ 13	チャーハンポジションで調理に取りかかる前に、チャーハン用フライパンで鍋を空焼きし油を馴染ませる作業をしていた。左手で鍋を回し、油を鍋全体に広げていたところ、油が飛び出し右手甲の部分から中指までにかけて15cmの範囲で火傷をする。	39	10 ～ 29
4	19～ 20	店舗客席において料理を提供しようとしたところ床が濡れていたため滑りやすくなっており、バランスを崩しとっさに鉄板に右手をついてしまい受傷した。	17	30 ～ 49
4	21～ 22	閉店作業でフライヤーの油を抜き、保管場所に移動させていたときに躓き、衝撃で油受けから油が飛散し、頬、両腕、左足にかかり火傷した。	19	10 ～ 29
4	14～ 15	店内にて、スチーマー操作の際に左手に容器を持ち給湯していたとき、熱湯が左手にかかった。	42	10 ～ 29
4	10～ 11	ランチの蕎麦を作成するため、熱湯を入れたポットをIHに設置しようとしたところ誤って落としてしまい、本人の両足全体に熱湯が掛かってしまった。	21	30 ～ 49
4	21～ 22	店内厨房内にて、焼台の受け皿に溜まった脂から火が上がったため、焼台の受け皿へ水を補充しようと受け皿を下ろした際に皿から炎が上がり、右腕に炎がかかり火傷した。	21	30 ～ 49
4	17～ 18	厨房内で食品を煮沸消毒している時に蒸気が手にかかってやけどをした。	18	10 ～ 29
4	10～ 11	出汁サーバーにかけ出汁を補充する際、あやまって左腕に出汁をかけてしまい上腕を火傷した。	25	10 ～ 29
4	10～ 11	厨房で、カツオブシを入れて出汁をとっていた寸胴鍋を傾けて中のカツオブシを網でこしていたとき、誤って出汁が右足にかかり火傷を負った。	31	10 ～

				29
4	17～ 18	調理場にて揚げ物をしていた際に、誤ってフライヤーの中にカゴが落ちてしまい、フライヤーからはねた油がかかり、右手の人差し指、中指、薬指、小指を熱傷した。	20～ 29	10 ～ 29
4	15～ 16	厨房で鍋で温めた小鉢用の煮汁をひっくり返してしまい、左足甲から足首にかけてと、右足の膝下外側の部分に火傷を負った。	42～ 29	10 ～ 29
4	18～ 19	味噌汁を作る際に、電源を切らずにだしを入れてしまい、沸騰したお湯が右掌親指付け根と両大腿部にかかり火傷を負う。	16～ 29	10 ～ 29
5	12～ 13	厨房にて、スープジャーの中に入っていたお湯の量を減らそうとジャーを持ち上げた際に、自分の体の方へ傾けた状態で引くように持ち上げた為、中のお湯が右足にかかりコックシューズの中に入り込み、右足裏に熱傷を負う。	21～ 29	10 ～ 29
5	8～9	鍋（15?）に入ったお湯をウォーマーに移そうとした際に、ウォーマーの蓋が閉まった状態に気づき、鍋をウォーマーをのせているIH調理台の手前に置いて左手で鍋を支え、右手でウォーマーの蓋を取ろうとしたところ、左手のバランスを崩して左足膝上にお湯がかかり、驚いて左手を鍋から離し、ひっくり返った鍋のお湯が右足甲にかかり火傷した。	35～ 29	10 ～ 29
5	8～9	厨房にて味噌汁作成時、寸胴の中のお湯に不純物を発見した為除去するも取りきれず、排水溝へお湯を捨てようとした際に右手が滑り、寸胴の中のお湯が右足首～甲にかかり熱傷を負う。	25～ 29	10 ～ 29
5	20～ 21	店内厨房にて、コールドテーブルの上に置いてある卓上フライヤーの掃除をしようとして、フライヤーのバーを上げようとして手が滑り油の中に加熱棒が落ち、入っていた油がはね、火傷（右顔面、左目上部、右腕全体、右脇腹）を負ってしまった。	19～ 29	10 ～ 29
5	2～3	所属店舗厨房内でフライヤーに肉を投入した際、右手小指の先端がフライヤーの油の中に入ってしまった。びっくりして慌てた際に油を跳ね上げてしまい、右手の	28	1～ 9

		手の甲から腕にかけて火傷を負った。		
5	14～ 15	そばを作っている時向かい側のつゆが少なくなり、つゆの寸胴がゆで釜に浮いていて、そこにつゆを足した時に寸胴が沈み、その反動でゆで釜の熱湯が溢れ、左足のふくらはぎに熱湯がかかり火傷をした。	50	10～ 29
5	19～ 20	調理機器の油の交換及び清掃作業中に機器内に溜められたお湯が加熱され誤って蓋をしてしまった。沸騰している状況で機器の蓋を開けてしまった者のそばで、別の清掃作業中の本人に噴き出した熱湯が体にかかり火傷をした。	16	10～ 29
5	19～ 20	調理機器の油の交換及び清掃作業中に、機器内に溜められたお湯が加熱され、誤って蓋をしてしまった。沸騰している状況で機器の蓋を開けてしまい、噴き出した熱湯が両足にかかり火傷をした。	17	10～ 29
5	15～ 16	ぶっかけ出汁を沸かしていた横で保管していたザル容器が倒れ、出汁の鍋が落下し、沸かしていた出汁が天ぷらをしていた本人の足にかかり、左足の足首辺りを火傷した。	20	10～ 29
5	3～4	店舗内厨房で、釜にあげた麺を取ろうとした際、伝票を見ながら作業をしていた為、手元を見ず行った為、誤って麺を湯がいている湯釜の中に右腕を約1/2浸けてしまう。	42	30～ 49
5	14～ 15	厨房にてお湯を沸騰させた鍋を移動中、シンクに鍋を当ててしまい、反動でお湯が飛び左上腕部左側腹部を熱傷した。	21	50～ 99
5	16～ 17	カウンターでコーヒーを作っていた際、誤ってコーヒーをひっくり返してしまい、右足の付け根にかかり負傷した。	32	1～ 9
5	19～ 20	調理場でディスプレイを見ながらの作業中、足元の引き出しが開いていることに気付かず躓き、鉄板の上に右手を置いてしまい、右手のひら全体を火傷し水ぶくれになった。	20	10～ 29
5	9～ 10	店内厨房にある揚げ物機械の油を交換する際、廃油缶を運搬中に廃油缶を持ち上げる機器が廃油缶から外れ、右手甲から肘下まで廃油がかかり火傷した。	37	10～ 29

6	22～ 23	当店厨房内にてフライヤーの油の交換作業中、フライヤーに近づいた際、フライヤー台の脚部分に自身の足が当たり、その衝撃で油が跳ね両足にかかり、甲部分を火傷したものである。	19	30 ～ 49
6	19～ 20	厨房でフライパンに油を入れて蒸している時に、フライパンを持ち上げた際、油をこぼしてしまい、右手人差し指にかかり火傷した。	20	10 ～ 29
6	19～ 20	白出汁を作成していて寸蓋を開けた時に湯気が腕に当たり、右首から人差し指、親指にかけて火傷した。	22	10 ～ 29
6	9～ 10	調理場内において、冷凍サーモンを移動する際、濡れた手で抱えた為、左腕を火傷し負傷したものである。	28	50 ～ 99
6	22～ 23	厨房にあるフライヤーの中の掃除をしていた。中の油を容器に移し、フライヤー内を洗い、油を再びフライヤーに戻そうとした際、重さのためバランスを崩し、油を右手と左足に被ってしまった。	32	10 ～ 29
6	19～ 20	厨房において、ガステーブルでお湯を沸かしポットに移す作業を行っていたところ、誤ってお湯をこぼしてしまい、それが左手指部にかかり負傷した。	22	10 ～ 29
6	9～ 10	出汁釜の火を点けようとしたところ、ガスが漏れていた為、勢いよく火がボンと点いたので、右手甲・中指・人差し指を火傷した。	22	30 ～ 49
6	15～ 16	ポテトを揚げる機械の前で、機械を清掃する棒を引っ掛けて落としてしまった。棒が熱くなっており、拾った際に火傷をした。	18	30 ～ 49
6	20～ 21	店内キッチンにて、フライヤーの油交換と洗浄作業中に、廃油を溜めた缶の中に誤って洗浄水を入れてしまい、熱い油が噴き出し、顔面・両前腕部・胸部を火傷し、救急車で搬送された。	20	30 ～ 49

6	16~ 17	厨房にて、スープの入った寸胴鍋を手に持ち移動したところ、足元が濡れており、足を滑らせて転倒し、持っていた鍋のスープを左肩から背中にかけてかぶり、火傷を負った。	43	10 ~ 29
6	17~ 18	釜場でうどんを茹でていて、多くのお客様に焦ってしまい、右手と左手で別々のタモを揚げようとして、誤って左手指を釜に漬けてしまい火傷した。	22	10 ~ 29
6	17~ 18	店舗厨房内において、湯をどんぶりに柄杓ですくい、どんぶりに入れたものの、どんぶりに湯が多く入り過ぎたため、どんぶりの湯を釜場に戻した際に右手首付近にかかってしまい、火傷をした。	44	10 ~ 29
6	10~ 11	店内ステーションにて、デカンタからコーヒーをカップに移す際、デカンタの蓋が閉まっていないことに気付かず注いだ為、蓋が取れてコーヒーが左手甲にかかり受傷した。	34	10 ~ 29
6	22~ 23	グリドルパッドを用いて、グリル板を磨いている際、グリル板に油をしいて磨き、その残った油をグリドルパッドの下にカウンタークロスを敷いて拭き取っていた。その時、グリドルパッドがホルダーから外れ、同時に高温の油がついたカウンタークロスが捲れ、右手の指にかかり火傷をした。本来ならば、油はしかず、グリル板を拭く際も Tongue とカウンタークロスで拭くところを、誤った道具と手順を行ったものである。当初、症状は軽かったが、次第に痛みが強くなった。	23	10 ~ 29
7	20~21	レストラン店舗内、ホットからパントリーへ味噌汁を持って行き、空のインセットを交換しようとした際、手前にあった、うどんつゆの入った鍋のレードルに手を引っ掛けてしまい、中のうどんつゆが右足にかかり、火傷を負った。	22	30 ~ 49
7	20~21	デイリーチェックの写真を撮影中、油受けにぶつかり、油がこぼれて足にかかり火傷した。	23	10 ~ 29
7	11~12	店舗キッチン内で、フライヤー清掃を高温のまま行い、バケツ（排水を溜めるための容器）に水を流さず、油の入った寸胴に水を流したため、寸胴を持ち上げて排油缶に入れようとしたときに、油と水が反応し、爆発した。両腕、顔面付近を火傷、救急車で搬送された。	22	30 ~ 49

7	21~22	店舗内客席テーブルにおいてお好み焼きを焼いている際に、テーブルが動いた拍子に体勢を崩し、とっさに右手を鉄板の上についてしまい受傷したものである。	20	30 ~ 49
7	20~21	厨房の肉鍋前で牛丼の肉を盛り付けしていたところ、注いですぐの味噌汁を持った他の従業員がぶつかり、左肩に味噌汁をかぶり火傷した。	20	10 ~ 29
7	15~16	所属事業場内で、製氷機の排水つまりを除去ために炭酸ガス（CO2）ボンベのガスをホースを繋げて使用したが、ドライアイス状になった炭酸ガスが手にかかっているにもかかわらず数秒ほどそのまま我慢していた。そのため、左手が凍傷のため腫れあがってしまった。	18	10 ~ 29
7	13~14	出汁を温めるIHの奥に鍋が置ける台があり出汁が入った鍋を台にまましていた。重さに耐えられなくなった台が手前に傾き、鍋が倒れて近くで作業していた本人の両足にかかり火傷した。	61	10 ~ 29
7	11~12	オートバイ朝刊配達中、路上に於いて、T字交差点を右折しようとした時、猫がバイクに向かって飛び出して来たため、バランスを崩し転倒し負傷したものの。	31	10 ~ 29
7	23~24	勤務先である居酒屋で締め作業の一つとして、フライヤーの清掃を行っていた。その際、右手の力が抜けてしまいバランスを崩し、油を浴びた。	21	10 ~ 29
7	11~12	店内カウンターエリア内で、アイスコーヒーの抽出作業中、コーヒー豆を入れるホッパーの設置が完全でなく、お湯の溜まったホッパーが落下しそうになり、咄嗟に左手で5秒ほど支えた際に受傷した。	17	50 ~ 99
7	11~12	小学校の厨房内でスチームコンベクションの操作方法を勉強している際に室内が高温だったこともあり意識が飛び倒れ込んでしまった。その際立って聞いていたの で左足を捻ってしまった。	22	10 ~ 29
7	0~1	うどん釜の熱湯を桶に入れようとした際に、桶が割れていたため熱湯が左手にかかってしまい、火傷を負った。	32	10 ~

				29
7	17~18	厨房で料理を運ぶ時にポケットに入れていたハンディー端末機の紐がみそ汁の保温器の蓋のとっ手に引っ掛かり、保温器が床に落ちる際に左足の膝から下にみそ汁がかかり火傷した。	33	~ 49
7	11~12	キッチンで朝のモーニングが終わり、新しく湯煎の鍋のお湯をかえる際ふりむいた時に体と体が当たって鍋の熱湯が腕にこぼれた。	48	~ 49
7	17~18	キッチン内にて高温のラーメンスープを冷まそうと、スープの入った片手鍋を電子調理器に置いておいた。その調理器の前を本人が通った時、鍋の取っ手と左腕が当たり鍋がひっくり返り、高温のスープが本人の足首、右膝、右太腿部にかかり負傷したものである。	31	~ 50 99
7	15~16	レジ2を開けている時、お客様のオーダーされた、ストレートのティーの茶葉をセットしたペーパーカップを作成しようと、カップを左手で持ち、右手でデジタルBUNNブリューワーカーのノブを開けてお湯を出して注いでいる最中にお客様から「オーダーを変えたい」と声をかけられて、体をお客様の方に向け視線も外したにも関わらず、右手で出しているお湯の抽出を止めなかったため、振り向いた勢いで、想像よりも左手が体の内側に入ってしまう、抽出しているお湯が流れ出る真下に左手があり受傷した。	20	~ 10 29
7	11~12	回転釜にて、器具の煮沸消毒を行っていた。その時に、ボウルを取り出した際、その中に熱湯が残ったままで、その湯が左足甲にかかり火傷。	47	~ 30 49
7	10~11	厨房内洗い場を移動中、他の従業員が床に流したスープが量も多く勢いもあったため、足元に流れてきて、足にかかり両足首から下部分をスープで火傷した。	18	~ 10 29
7	11~12	店厨房内において、専用グリルによりパティを焼く作業に従事していた。パティを焼いた後、専用器具を用いてグリル表面を掃除していたところ、手が滑り、右手握りこぶしの状態でグリル表面につき、右手中指（手の甲側）を火傷した。	19	~ 30 49

7	19～ 20	ホール接客業務中、出来あがったラーメンを運ぼうとした際、2個同時に持とうとした所、バランスを崩し、ラーメンの汁がこぼれて腹部にかかった。すぐに冷やしたが皮ふは赤くなり水ぶくれができ、破けてしまった。	68	1～ 9
7	19～ 20	調理場にてフライヤー横の作業台上り、フライヤー上のダクトフードの清掃をしていた際に足を滑らせ、フライヤーの中に左足から落ちた。その際に、左右両方の足全体と右足の内ももを熱傷した。	28	10～ 29
7	22～ 23	当事業場の厨房内で、フライヤーの締め作業のため、高温の油を抜いていたとき、その油が入った容器を動かそうとした際に手が滑り、油が手と顔にはねた。	20	10～ 29
7	14～ 15	厨房で調理中に、熱したフライパンに少量の油を入れて、上部の棚に置き、フライパンを入れ替えたときに、右手の甲に油がかかって火傷した。	61	10～ 29
7	22～ 23	キッチンにて清掃中、チーズウォーマーのお湯を抜いたとき、誤って足にお湯がかかり、右足の甲を火傷した。	21	100～ 299
7	13～ 14	店舗内調理場で、タルタルソースの卵を茹でているとき、ガスレンジの上棚から食材が落下した。その食材が卵を茹でている鍋に落下し、100℃近くの熱湯をかぶり、腹部・左大腿部・左下腿部にⅡ度の熱傷を負った。	52	10～ 29
7	18～ 19	厨房にてお子様カレーを調理時、加熱したカレーを盛り付ける際に、手が濡れていたため手が滑り、右手にカレーがかかり、右手人差し指・中指・薬指と右掌に火傷を負った。	18	10～ 29
7	10～ 11	厨房にて開店の準備をしていたとき、開店に間に合わせようと慌てており、従業員同士でぶつかってしまい、後ろによろめいて調理台にぶつかった。その際、調理台にのせてあった鍋が揺れて中身がこぼれ、背中および腹部にかかり火傷を負った。	44	10～ 29
	11～	店舗厨房内にて、ガスコンロを使用して鍋に入ったカレーソースを仕込み、洗い場にて食器の洗い物をしていた。その際、厨房内に換気扇が1つしかなく、炊飯		1～

7	12	ジャーの蒸気やフライヤーの熱気の影響で、厨房内の温度は大変高い状況であった。さらに、入社したばかりで緊張していたこともあり、水分補給を怠ってしまったため、倦怠感と筋痛の症状が出て救急車で搬送された。	57	9
7	3~4	キッチンで作業中に、フライヤーの底網についた食材を取ろうとして、誤って右手人差し指を油の中に入れてしまい火傷をした。	28	30 ~ 49
7	11~ 12	店内厨房から座敷に熱いお茶（ヤカン）を運ぶ際、20cm位の段差に足が引っかかり、大きく転倒し、お茶を右手にかぶり火傷をした。その際に膝を強く打ち、右膝を負傷し、歩行困難となった。	65	1~ 9
7	21~ 22	店舗バックにて、肉鍋のタレこし中のタレが入ったサタンの横を通った際に、タレこしのネットに躓き転倒し、その際にサタンのタレがこぼれ、両足首に掛かり火傷を負った。	65	10 ~ 29
7	18~ 19	厨房内洗い場にて、茹釜のお湯を捨てようとした際に、いつもより釜が傾き、手にお湯が掛かった。その際、火を消して間もない熱湯状態であったため、火傷を負った。	49	1~ 9
7	23~ 24	グリドルクリーナーで餃子グリルを清掃中、クリーナーを拭き取る際にその油が右手の甲・中指・薬指にかかり、火傷を負った。	29	10 ~ 29
7	14~ 15	うどんだし用のお湯を補充しようとしたとき、スープジャーに入っていたレードル（お玉）に寸胴（お湯が入っている）が当たり、バランスを崩し、お湯が足にかかり火傷を負った。	25	10 ~ 29
7	20~ 21	厨房から客席へ配膳をする際、厨房からホール入口へのスイングドアを外のスタッフが片手で押さえ、先を譲ってくれた時にバランスを崩し、そのスタッフが片方の手に持っていた調理品が背中にこぼれ火傷を負った。	21	10 ~ 29
7	23~ 24	オムレツを作るため、オムレツ型枠（フライパン）に油を入れて温めていたが、油を入れ過ぎていたため油を捨てようと急ぐあまり、勢いよくオムレツ型枠を動かしたところ、油がこぼれて左腕にかかり、火傷を負った。	20	10 ~ 29

9	16～ 17	店内キッチンにて、フライヤー内のカス取り作業を行っていた際、フライヤー上部の部品が落ちてきたため、その部品を右手で抑えようとした際に、高温の油が入っているフライヤー内に右手が入ってしまい、右手指から前腕にかけて火傷を負った。	27	30 ～ 49
9	19～ 20	レストラン店舗内、パントリーにて、お客様への注文品が重なった為、左手にそば腕を持ち、右手でラーメンを作って、トレイに載せようとした際、そば腕が傾いてこぼれ、左手にかかり、手首に火傷を負った。	20	30 ～ 49
9	20～ 21	店舗厨房内においてオーブンを使用して調理していた際にコンベクションオーブンの扉を開いた。扉が自動で閉まることに気付かなかったため扉に右肘が接触してしまい火傷を負ったものである。	18	30 ～ 49
9	19～ 20	鍋から背油の煮汁を排出する時に、履いている長靴の中に煮汁が流れ込んでしまった。	25	30 ～ 49
9	18～ 19	店舗キッチン内で、スープの入っている寸胴（高さ30cm、スープ12?入）を移動させている時に、床に置いてあった炭の箱につまずき、波打ったスープが右首から右腕全体に飛びあびてしまう火傷を負う。	49	30 ～ 49
9	12～ 13	店のカウンターにて、業務用コーヒーマーカーでブレンドコーヒーを抽出中であつた事に気付かず、ブレンド粉を入れる器具を外した際右手甲～手首にかけて熱湯がかかり、熱傷を負う。後日、抽出中はパウチをコーヒーマーカーに貼り、抽出中と分かるよう対策した。	21	10 ～ 29
9	22～ 23	当事業場の階段にて、廃油を運んでいた際に滑ってしまい、持っていた熱い廃油が下半身にかかり火傷を負ったものである。	37	30 ～ 49
9	12～ 13	キッチンにて鉄板でステーキ肉を焼いている際、足を滑らせてしまい、咄嗟に鉄板に右手をついてしまい火傷した。	24	1～ 9
9	10～ 11	店舗内調理場にてラーメンのスープを濾す為鍋をかたむけ持っていたところ、手元が滑り鍋の中のスープがこぼれ、左足太もも裏とふくらはぎから指先まで、右足	30	10 ～

		ふくらはぎにかかり熱傷した。		29
9	13～ 14	店内キッチンにて調理していた際、電磁調理器の電源が入っているのを知らず、上にあつたボールに触れてしまい、左手拇指・示指・中指付近に火傷を負った。	22	30 ～ 49
9	22～ 23	調理場の冷麺場所で清掃時、冷麺釜の熱湯を本人の不注意により、冷麺キャップに付着する麺をふやかそうと、熱湯をかけた時に熱湯が飛び散り、その熱湯が足にかかり火傷した。	18	30 ～ 49
9	21～ 22	レストラン店舗内、ホットにて、蒸し器にセイロを戻そうと両手で持っていた際、スープ用のお湯を入れておいた500mmの計量カップにセイロが触れ、お湯がこぼれて左足にかかり、火傷を負った。	21	30 ～ 49
9	13～ 14	フライヤー油交換の際、交換した油を専用保管庫に収納しようとしたが、収納庫がいっぱいで、収納庫の横に、前日交換した廃油缶の上に置こうとした際、誤って廃油缶が転倒し、その際、油が飛んでしまい、首筋から胸部と左足の甲にかかり、火傷を負った。	16	30 ～ 49
9	17～ 18	店内調理場において、蒸し器から茶碗蒸しを取り出す際、誤って蒸気で右腕内側を火傷したものである。	65	30 ～ 49
9	11～ 12	事業所内の棚の前で立ち作業を行っている時に、棚の下の段付近に置いている業務用のポットが倒れた、ポットの上蓋が外れ、中に入っていた沸かした直後のお茶が全部ザバツと両足にかかって火傷した。すぐに水で冷やしたが、足の甲の痛みが強く、右足の指全部と左足の親指に水ぶくれができた。	47	10 ～ 29
9	20～ 21	バイト中にお茶を注いでいる時に、手が急須にあたりその中に入っていた湯がかかった、当時、作る場所は狭く、人が激しく行き交っていた、右肩、右上の背中に火傷を負った、水ぶくれが出来、皮がむけた。	20	1～ 9
9	6～7	厨房内に於いて、朝食用の味噌汁の寸胴を厨房からホールに運んでる際に、まな板を洗った際に誤って排水溝の蓋の上に木を流してしまい、蓋の上が濡れていた為、足を滑らせ味噌汁の寸胴がこぼれてしまい、右の頬、首、左腕の肘辺りに火傷を	18	10 ～ 29

		負った。		
10	15～ 16	営業前の仕込中、ガスで揚物をした後、その油を捨てる為、狭い厨房中作業場で鍋を持ったまま足もとと手が滑り、油が自分にかかってしまった。くつ下はすぐ脱いで足を冷やしたが、仕込が追いつかず、そのまま営業終了時まで仕事をした。包丁を研いでいて左手小指を切ってしまった。	39	1～ 9
10	20～ 21	店内キッチンにて、フライヤーの揚げカスを取っていたときに、誤って手を滑らせ170度のフライ油の中に手を突っ込んでしまい、左手に火傷を負った。	38	30 ～ 49
10	15～ 16	厨房内で飲み放題の準備の作業をしていた他のスタッフに移動中ぶつかってしまい、右足首に湯がかかり火傷した。	19	10 ～ 29
10	9～ 10	そば茹で時の追加用の沸騰したお湯を容器にためていた時、容器が傾いて左足に熱湯をかけてしまい火傷してしまった。	43	10 ～ 29
10	16～ 17	店舗内キッチンにて、作業台に上がりダクト（換気扇）を清掃していたところ、足元が滑り、誤って稼働中のフライヤー（揚げ場）に左足先が入ってしまい、負傷した。	41	30 ～ 49
10	10～ 11	刺身小鉢に若布の盛り付け作業中、コンロで味噌汁を作った他のスタッフが鍋の中身を保温器に移そうと鍋を持って移動した際、シンクで作業していた被害者の背中に腕がぶつかり鍋の中の味噌汁がこぼれた。その味噌汁が被害者の背中から足にかけてかかってしまった。	67	1～ 9
10	20～ 21	店内キッチンにて、煮込みうどんの調理中、電磁調理器上で加熱され熱くなっていた鍋に触ってしまい、右手中指・環指付近に火傷を負った。	16	30 ～ 49
10	0～1	当社居酒屋店舗内厨房で、調理のため揚げ物のフライヤーに油を補充していた時、誤って手が滑り、油が勢いよく注がれたはずみで中の高温の油が跳ね、身体にかかり負傷した。	24	30 ～ 49

10	11～ 12	野菜を揚げている油が跳ね、左頬周辺に油が飛んで火傷した。	55	10 ～ 29
10	11～ 12	被災労働者が店内の厨房にてフレンチトーストを調理中、通路を挟んで労働者の背後の棚にスープの入った保温調理器が置いてあった。被災労働者と保温調理器の間の通路を、タオルを腰に掛けた被災労働者とは別の労働者が通ったとき、被災労働者とは別の労働者のタオルのわの部分保温調理器のふたの取っ手部分に引っ掛かり、保温調理器が床に落ちた。その際、こぼれたスープが労働者の左足ひざ裏下にかかり、火傷した。	28	1～ 9
10	20～ 21	店内厨房に於て、フライヤー（幅40cm、奥行き50cm、深さ25cm）の周りの掃除をしていた。揚げ油や揚げカスをダスターで拭いていた時、力を入れて拭いていたため、油で手が滑り、肘から手首の間が油に触れてしまった。フライヤーの中の油の温度が高く熱傷した。	20	1～ 9
10	0～1	店舗の厨房内でガスボンベのガス抜きとガスコンロの掃除と着火テストをしている時に、引火しガスが爆発して顔全体に火傷をおった。	30	1～ 9
10	12～ 13	厨房内にて、うどんを圧力釜で茹でていた時、いつもと違う変な音が圧力釜からしたため、気になり蓋を開けてしまった。その際、圧力釜の圧が抜けていなかったため、湯が噴きだして火傷してしまった。	50	30 ～ 49
10	20～ 21	フライヤーで揚げ物を調理中、揚がった揚げ物をボウルに移した際、手を滑らせ誤ってボウルをフライヤーの中に落としてしまった。その時、油が大きく跳ね、顔を守るために反射的に右手を出し、油が右手の第2.3.4指にかかり火傷したものです。（通常であれば、フライヤー横で揚がった食材を移すべきところ、急いでいたため、フライヤー上空で移す作業をしてしまったものである。）勤務終了後も冷やし続けたが、腫れがひどくなり、痛みも引かなかった。	35	10 ～ 29
11	10～ 11	当店厨房内にてはまぐりの汁を火にかけていたところ、火にかけてのまま他の作業に気を取られていたため、鍋掴みに引火し、左手指（親指以外）を火傷したものである。	46	30 ～ 49
		店舗厨房内にて、オペレーション中に排水溝グレーチングの上で足を滑らせてし		

11	13～ 14	まった。体勢を整えようと右手で掴んだ先がフライヤーだった為、右手の肘まで熱した油の中に入ってしまった。直ぐに抜け出したが、その際はねた油で左手、顔にも油がかかり火傷を負った。	50	1～ 9
11	13～ 14	外遊びの時間に学校の体育館脇にあるコンクリート道路で、右手に救急用具を持ちながら児童らと一緒に追いかけてこをしていたら、足を躓き左側から転倒してしまった。	18	30 ～ 49
11	21～ 22	店内サービスエリアにて、お茶の準備をしようとした際、近くにあった空焚きされ熱くなった寸胴鍋に触れてしまい、左手に火傷を負った。	17	30 ～ 49
11	11～ 12	ジェットオーブンから料理をクックアウトする際に、誤ってIH上で加熱されたやっところ（鍋つかみ）を手で握ってしまい、右手のひらを火傷してしまった。IH上に加熱する危険性のあるものは置かない、使用したものは元の位置に戻す、を徹底するように指導していく。	41	10 ～ 29
11	16～ 17	被災者は、お客様に提供するラーメンの調理業務中、被災者の背後で寸胴（直径約40cm、高さ約38cm）でラーメンスープを沸かしていた。その寸胴はコンロの中心からずれた不安定な位置に置かれており、被災者及び他のスタッフが触れるなどしていないにも関わらず突然バランスが崩れて被災者の方に倒れた。寸胴には約20リットル分の沸騰したスープが入っており、そのスープが両足のふくらはぎ及び右足の甲にかかり負傷した。	19	10 ～ 29
11	15～ 16	勤務先の飲食店で、フライヤーの網をフライヤーの中に落としてしまい、油が右腕全体に跳ね上がり火傷した。	29	50 ～ 99
11	9～ 10	ランチ用のお茶をヤカンで沸かし、調理場からヤカンを持って出る際、段差に躓き腕と足に沸騰したばかりのお茶が全部かかってしまった。	55	1～ 9
11	12～ 13	勤務中に注文が少し多く入り慌ててしまい、普段より少し多く油を入れたフライパンで目玉焼きを作る際に温めたフライパンの取っ手を握ったところ、予想以上に熱かったことに驚きフライパンの油を手を被ってしまった。	24	1～ 9

11	11～ 12	店舗厨房の作業台の上で小さい寸胴鍋に8分目位まで入れた魚介スープを卓上電熱器で温めていた。後方の冷蔵庫から卵を出した際に沸騰状態（沸騰し過ぎて）となった鍋が突然転倒して、高温のスープがかかり、腰の後側～太股の後側～足首にかけ火傷を負った。	30	10 ～ 29
11	14～ 15	当社店舗キッチン内において、キッチン担当者が手鍋で作ったランチスープをスープウォーマーに移す作業後、手鍋にスープが残っているのに気付かず誤って横にいた被災者の左足（膝下）にかかってしまった。氷水で冷やし様子を見たが痛みがあるため病院に受診した。	39	30 ～ 49
11	19～ 20	店の厨房で油の入ったフライパンをコンロにかけて状態で、後ろ向きになりしゃがんで冷蔵庫から物を取り出していた。振り返って、コンロにかけていたフライパンを服で引っ掛けて熱した油を身体に掛けてしまい火傷をした。氷で冷やしたが、全く治らないので病院へ行った。	24	10 ～ 29
11	22～ 23	閉店作業で明太子の缶を汚れが落ちやすいように湯を入れて足元に置いていた。本人が釜を清掃時に誤ってその缶を蹴ってしまい、中の湯が右足甲にかかり火傷した。	19	10 ～ 29
11	16～ 17	ざる蕎麦用の竹すのこを煮沸後、熱湯を流す際にエプロンと長靴の間から熱湯が入り、足の甲を火傷した。	29	10 ～ 29
11	20～ 21	キッチン内のフライヤーの前で調理作業中、バランスを崩し、右手及び右腕をフライヤーの中につけてしまった。	17	30 ～ 49
11	18～ 19	店舗営業中、餃子機の鉄板を掃除するために、麺機で沸騰していた熱湯を杓ですくい、鉄板に流し込もうとしたところ、誤って足元に熱湯をこぼしてしまい、履いていた長靴の中へ熱湯が入って、左足の内くるぶし周辺10cm四方の範囲で火傷を負い、病院へ救急搬送した。	15	300 ～ 499
11	13～ 14	厨房内の井場で作業をしていた際、後方に行こうとしたら床のグレーチングで足が滑り慌ててカツフライヤーの縁に掴まったが、油で手が滑りフライヤーの中に手が入って火傷してしまった。	20	30 ～ 49

11	19~ 20	出勤してキッチンに入った時、滑って転倒しガスコンロに手が掛かり湯切り用の鍋が倒れて、顔と体にお湯がかかった。	52	1~ 9
12	20~21	店舗厨房内において、調理作業中にチキンの入ったバスケットを、クッカー内に掛けようとしたが、掛かっておらずに油の中にバスケットが落下し、跳ねた油が右前腕と右頬上部にかかり熱傷を負った。	18	1~ 9
12	10~11	厨房内にて、お客様より注文のあった茶碗蒸しを作成後、熱くなっている蒸し器の取っ手を掴んでしまった。取っ手を掴んだ際に、右手の親指、人差し指、薬指、小指を火傷し、水ぶくれになった為、病院にて治療を受けた。	40	~ 29
12	19~20	ゴルフ場内メイン厨房で、業務終了後、メイン厨房洋食エリア内のオープン下周りを清掃する際に、床面に付着している、しつこい油汚れを浮かせる為、熱湯をオープン下にかけてようとした際、その熱湯の一部が左足の甲部分にかかり受傷した。	20	~ 299
12	15~16	厨房内にて、ゆで麺機の掃除をする為、麺機から熱湯を放出しようとして麺機の底からホースを排水溝へ入れ、放出中にホースに穴が空いていて熱湯が右足のくるぶしにかかり火傷をした。	36	~ 29
12	15~16	厨房内で、ラーメンスープ用の背脂5kgを20?の熱湯が入った寸胴鍋で温めた後、背脂を鍋から網ですくって攪拌機へ投入する工程で、ガスコンロの中心に鍋が置かれておらず、網ですくううちに鍋がバランスを崩し落下し、鍋の熱湯が右脛・右足甲・左足甲にかかり、やけどをしたものである。当初は軽傷と診断され休業もなかったが、2週間ほど経った後、このやけどが原因で感染症となり、休業に及んだ。医師からは、当初の熱傷の深さがわからなかったとのことである。	31	~ 29
12	20~21	所属店舗厨房内でフライヤーの油濾過作業中、濾紙交換用金具を使用して揚げカスを落としていた所、誤って油を引き上げてしまい腕にかかり火傷した。	21	
12	14~15	キッチン内の通路を移動中、床においてあった油槽洗浄用の熱い油の入った容器につまずき、その際に油が左足足首から下部分にかかり火傷した。	18	~ 29
12	13~14	厨房でお茶を寸胴鍋で沸かし、そのお茶を大きなポットに移し替えようとしたところ、誤って沸騰したお茶が自分の右手の中指あたりにかかり火傷をした。	21	~ 10

				29
12	18~19	店内フライヤーの前で、溶解済みのショートニング補充中、缶から直接補充しようとして、ショートニングがかかり、右手示指・中指・薬指・小指を受傷した。	18	10 ~ 29
12	17~18	店内厨房の洗い場前で、食材を取りに行こうとしたところ、社員が熱いままのスープが入っている鍋を運んでいる場に居合わせ、その社員が足元を崩し鍋の中身がひっくり返り、こぼれたスープがそのまま被災者の足元にかかり火傷を負った。	21	30 ~ 49
12	20~21	事業所内厨房にて、揚げ物をしていた際、足が滑り、手をつこうとしたところ、右手がフライヤーの中に入り、右手の甲と肘から先の内側に火傷を負った。	40	1~ 9
12	12~13	厨房での仕込み作業中に、スープを煮ていたコンロの火が衣服に引火し、背中と手に火傷を負った。	24	10 ~ 29
12	14~15	店のバックにてチャーハンを作っていたところ、後ろで他のクルーがスープを作るため、雪平鍋に熱湯を入れ、「後ろを通る」と声掛けしながら振り向いた。その際、その声に反応して相手に一歩近づいたため衝突し、臀部に火傷を負い、救急搬送された。	21	10 ~ 29
12	12~13	当事業所店舗厨房において、昼食メニューのラーメンを調理中、補充用スープ鍋を持ち、ガス台にある鍋にスープを補充しようとしたところ、長靴は履いていたものの、足元が滑り転倒し、右腕にスープがかかり負傷した。	39	1~ 9
12	20~21	店舗厨房で食材の補充作業をしていたところ、食材保管庫に近いコンロに置いてあった調理中の油が入ったフライパンの柄が被災者の身体に当たり、はずみでフライパンが落下し、被災者の右足側面から甲にかけて熱傷を負わせた。	27	10 ~ 29
12	18~19	ポテトバットをIHの上に置くとき、加熱スイッチをOFFにしたつもりだったがONになっており、再加熱されたポテトバットを右手で掴み火傷を負った。後日、患部の水膨れが潰れ、膿んでしまったので受診した。	20	10 ~ 29
12	12~13	店舗バックにて、白だし作成のためIH調理台でお湯を沸かそうと大鍋の蓋を取った際、その蓋が大鍋の横に置いてあった5000ccのメジャーカップに当たり、中のか	50	10 ~

		けだしが右足甲に掛かり、火傷を負った。		29
12	21~22	展望レストラン厨房にて、シンクで洗い物作業中、横で別の係員が100?寸胴の中のお湯を側溝へ流そうと寸胴を勢いよく持ち上げた。中のお湯が勢いよく飛び出し、そのお湯が左足外側にかかり、火傷を負った。	22	300 ~ 499
12	21~22	閉店作業時、汚れの落ちにくいカレーポットに熱湯を入れ、足元に置いていた。それを誤って蹴飛ばし、中の湯が靴に入って、左足甲と足首を火傷した。	22	10 ~ 29
12	14~15	調理場とホール間のディシャップカウンターにて、鍋焼うどんの配膳作業中、バランスを崩して鍋焼うどんを落とした。そのとき右手と左太ももに高温の出汁がかかり、病院へ救急にて搬送された。	52	10 ~ 29
12	14~15	厨房にて、調理器具を洗浄中に、誤って茹で麺器に右手を突っ込み、右手人差し指と中指に火傷を負った。	18	10 ~ 29
12	16~17	キッチンにおいて、コンベクションオーブンにて焼成完了した商品の出庫時に、左手でドアを開け、右手でミトンを取ろうとした際、発生していた蒸気で右手首から肘までを負傷した。	23	10 ~ 29
12	13~14	店内キッチンの料理提供台にて、ハンバーグの焼き石を皿にセットしようとしたところ、焼き石の入ったバットが斜めになり、熱い油がたれて右手首・右脇下周辺・腹部にかかり、火傷を負った。	23	30 ~ 49
12	19~20	店内の厨房において片付け作業中、熱湯の入ったお湯を捨てようとして手を滑らし、脚にかかってしまった。その際、両足の太ももと甲から指先、右足の膝横に火傷を負った。	19	1~ 9
12	13~14	勤務先店舗内でスープ製造が終わったあと、釜の掃除を行おうと釜の近くに右足を踏み入れた際、通常は蛇口を閉めて清掃作業を行うが、お湯を出したままの状態です右足を踏み入れたため、右足踝から下部分に火傷を負った。	33	1~ 9
12	17~18	厨房にて、フード（換気扇）のメンテナンスをしていた際、フライヤーの上に厚さ1cm程の厚板をのせて、その上に立ってメンテをしていたところ、突然板が割れて	16	100 ~

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pgm/SHISYO_FND.aspx(職場のあんぜんサイト)

Return to : https://www.jisha.or.jp/international/topics/202206_09.html